

日本語クラスは、日本留学のトレンドや国際プログラムの多様化に伴い、クラス運営にも新たな課題が生じている。特に初級クラスは、受講生の文化背景も価値観も多様で、全員の国籍や母語が異なることもしばしばある。日本語教育部ではこのような日本語クラスをより多くの一般学生にも開放し参加の機会を提供したいと考えている。現在の日本語教育および日本語教育の視点からみた課題と今後の可能性等について以下に述べる。

## 1. 大学院生への日本語学習支援

本学の日本語コース受講者の履修状況には顕著な傾向がある。半年間の日本語予備教育を受ける日本語研修生や、短期留学生、YCCSプログラム、セッションプログラムなど、日本語を集中的に学ぶ者、そして、専門授業の合間を縫ってクラスに通う大学院生の間には、学期末に顕著な差が生じる。院生の場合、週当たり6コマからなる日本語集中授業の受講を開始しても、1学期間継続するのは難しい。特に、日本語の集中学習を目的としたプログラムが増えてから、その傾向は強まったように感じられる。所属先によっては、日本語科目の履修が単位化されないケースもあり、動機づけと実際の学習時間の確保の困難さがその原因かと思われる。一方、学内からも、院生の日本語学習の必要性に関する要望を聞くことがある。対応策としては、次の点が考える。まず、学年歴に合わせた1学期間の授業ではなく、2カ月程度の短期間のコースを設け、受講しやすい日本語科目の開講を研究科との間で調整することである。次に、クラスに通えない学生のための自律学習である。数多くの学習リソースがウェブ上には存在するが、ウェブ学習は学生自身の力だけでは効果を上げにくく継続も困難であるため、その実施にはサポートが必要である。2013年度より、日本語サポーター制度を設け、日本語クラスには、日本人学生が参加している。こうした日本語サポーター経験者のほか、日本語教育、英語教育を専門とする学生が一定の研修を経て、いわゆる、メンターを養成するシステムを構築していくというものである。

留学目的は学位取得であり、課程は英語で修了できるので、日本語は不要だと思われるが、「言語権」という視点から考えれば、当該国の言語学習の機会が保障されていないため大きな不利益をもたらされたというような事態は避けなければならない。留学生が希望すれば、留学先の言語を学ぶことのできる環境を用意するためには、今後の調整が必要である。

## 2. 派遣留学生にとっての日本語教育

本学の欧米への派遣学生の中には、留学先で、日本語学科や外国語センターの日本語科目のアシスタントを経験した者もいる。また、東南アジア等、日本の大学と提携を持つ機関の中には、外国語として日本語科目をおいている機関が多く、日本人留学生がアシスタントとして教室に入るケースも他大学では報告されている。こうした留学中の活動に対して、事前研修や本学の日本語クラス見学等を経て、現地で日本語アシスタントの経験を意義づけるためにも、このようなアシスタント活動の単位化は、派遣留学の動機づけの一つともなろう。先行例として、日本語教育学会 2013 年春季大会でパネル発表「大学の世界展開力と日本語教育のグローバル戦略 ASEAN 諸国等との大学間交流の形成支援事業から」において、早稲田大学や明治大学の事例が報告された。

## 3. 日本語教育ワンストップ・サービス

留学生を大学院で受け入れる際に、願書とともに日本語能力試験の結果の証明書の提出を求めることも多いが、今後日本語能力試験受験の機会のない国や地域からの応募に対応できるシステム作りが必要である。各研究科が求める日本語力の測定をウェブ上で実施できる方法など、渡日後のみでなく、渡日前も含めた日本語教育のワンストップ・サービスとしての機能の充実化が必要となる。また、履修クラスを決めるプレイスメントテストを入学後に実施しているが、これを渡日前に行うことは、慌ただしい新学期の心的負担の軽減にも役立つ。協定校の場合、渡日前に担当者の立会のもとで受講できるよう、各種プレイスメントテストのウェブ化を図ることも重要である。

## 4. 日本語支援活動等への顕彰

留学生の中には、学位論文を日本語で執筆する者も多いが、その際、日本語のネイティブチェックが必要となる。論文完成にあたり、有料で日本語チェックを受ける場合もあれば、また、国大ボランティアや民間ボランティアの方々から地道な支援を受けているという報告もある。日本語や学業への支援をはじめ、日常面の献身的な活動に対し、顕彰の機会が拡大されるよう提案していきたい。

国によっては、大学が学生に顕彰の機会を多く与え、海外留学選考の際、受賞経験を有利に活用しているケースも目にする。特に日本の場合、学会からの顕彰の機会の少ない文化系の学生にとって、国際的貢献が大学から表彰されれば、様々なメリットがもたらされると思われる。

本学の国際化の中で日本語教育が果たす役割について、また、日本語教育の立場から見た課題や提案について、機構の中で議論していきたい。